

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和5年7月21日（金）13:30～16:00

■プログラム

1. 開会

2. 議事

(1)第4回協議会・第2回自然環境活用部会の報告

(2)地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案

(3)福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験

(4)国機関の取組

・環境省(OECM・自然共生サイトについて)

・農林水産省

(農林水産省生物多様性戦略について)

・国土交通省

(えちごエコネットにおける国土交通省の取組)

(5)行動計画(2030)の骨子(案)について

(6)その他

3. 閉会



第3回自然環境活用部会の様子

【地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案】のご意見

- ・ラムサール認証自治体になった新潟市の子どもたちと、湿地再生に取り組む他国の子どもたちの交流が図れると良い。
- ・新潟県に訪れる旅行客のデータがあると戦略が立てやすくなる。今後も連携してデータを取得し続けられると良い。
- ・自治体の市長には、是非、生態系ネットワーク形成事業に入ってもらいたい。
- ・SNSで発信する際には、ハッシュタグを戦略的に統一していくための分析が重要。発信をお願いする時も、統一したキーワードとなるようにアプローチする必要がある。

【福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験】のご意見

- ・オープンカフェをどのように社会実験として活かしていくのかが重要なポイント。
- ・オープンカフェは普及啓発の一環で利用手段として進めているため、ブレが生じないような調査設計をしていきたい。
- ・地元の食材を食べながら、地元住民とオープンカフェの合意形成を図ったという話を聞いた。そのような地域資源の活用は、エコネットやカフェ運用のどちらの観点からも良いと感じた。
- ・オープンカフェを核として連動するその他のアクティビティプロダクツ案をみて、これから可能性や発展性を感じ、とても期待できる。実験的に運用を進めていくと良い。
- ・QRコードを読み取ると、お勧めの自然環境の場所情報が得られる点も非常に素晴らしい。実際にお勧めの地点で撮影した野鳥の写真を載せておくと、図鑑のような役割として使えるのではないか。合わせてレンタル双眼鏡があると良い。
- ・福島潟の魅力をまず自分たちが、認識した方が良い。地元の食材を堪能しながら福島潟の将来について語り合えればと思う。
- ・地域の農産物、文化や歴史の繋がりをガイドに紹介してもらうと満足度が上がるのではないか。ガイドにもお金が回るような仕組みづくりができると良い。

【国機関の取組】のご意見

- ・越後平野の生態系ネットワークの農地や森林、河川などの環境が30by30の要素として登録されていくと喜ばしい。
- ・生態系ネットワークを形成するには、河川管理者と農地関係者のネットワークを形成する必要ある。
- ・自然再生が目的ではなく、魅力を引き出しながら資源を利用し、資源が必要だから自然を保全する流れが重要である。

【行動計画(2030)の骨子(案)について】のご意見

- ・民間の事業者を巻き込みながら行動計画を進めると市町村も動きやすくなるのではないか。

【その他】のご意見

- ・部会で関東エコロジカル・ネットワークの視察に行ってはどうか。
- ・若者は、SNSによる発信が主流となっている。福島潟の素晴らしさをスマートフォンで撮ってもらい、あげてもらえると発信が広まりやすくなるのではないか。

第4回 自然環境活用部会 概要

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和5年12月12日(火)

10:00～12:10

■プログラム

1. 開会
 2. 議事
- (1)第3回自然環境活用部会の報告
- (2)地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案
- (3)福島潟エリアにおけるモデルプロジェクト実証実験
- (4)行動計画(2030)の骨子(案)について
- (5)その他
3. 閉会



第4回自然環境活用部会の様子

自然環境活用部会に合わせて、自然栽培に取り組まれている上野農場や福島潟周辺の視察、潟の食材を食べながら活用の展開について検討する食事会を実施した。



視察の様子



潟の食材を食べながら今後の活用展開を検討している様子

- 自然栽培米の購入者多くは、都市部に住む人だが、地域の人こそ買っていただきたいという思いで生産している(生産者)。
- この時期にも江に水が残されており、生きものにとって良い環境が保たれている。

【第3回自然環境活用部会の報告】のご意見

- 関係市町村のOECMの対応と齟齬がなく、また、OECMに生態系ネットワークのスポットを組み込むよう調整いただきたい。
- 新潟県の担当者と調整し、県の生物多様性地域戦略にえちごエコネットの話を組み込むべき。そこに至るまでのロードマップを提示いただきたい。

【地域づくりや利活用に関するご意見を踏まえた方策案】のご意見

- 指標種のネットワークという視点で、他地域の生態系ネットワークとのつながりをイメージする。一方で、活用という観点でも、ネットワーク使ってどのように取組みを発展させるかのイメージを作り上げると良い。
- 今後、トキの野生復帰を進める上では、佐渡の様に江・畦の管理やJAとの連携拡大が必要。
- 抽出した指標種のホットスポットにおいて、地域の情報を整理しながらネットワークの核となる場所を作る。その核を中心に、サテライト的にネットワークが広がっていくと良い。
- 農地・森林と川を中心としたエコネットをどのように結び付けるか、県や市の農地のセクションと積極的に連携し、さらに、農業従事者と調整するネットワークを農地セクションを中心に作る必要がある。
- SNSのハッシュタグについて、「福島潟」と検索して出てきたおすすめのハッシュタグから、戦略的にどのようなハッシュタグで広めていくのか考え、二つ三つ選ぶと良い。
- なんでもありの施設だと魅力が半減する可能性がある。福島潟の強みを整理し、どのような客にお金を使ってもらうのか整理した上で進める必要がある。
- 福島潟がえちごエコネットの形成上どのような位置付けで、どのような環境を持続的に守る環境づくりが必要かの議論がかけており、まずはそこを検討する必要がある。その上で、福島潟の活用や地域の人の力を得ながらの管理の在り方を考えていく必要がある。
- 生き物・自然を守るのみの理想論では、なかなか守れない。食材として私たちが利用し経済的に成り立つ中で、彼らが生息できる環境を理解し、それらが生活できる環境を守ることが大切である。えちごエコネットで、福島潟や阿賀野川の恵みを用いた新潟ブランドを作っていくと素晴らしい。地域色のある食材を使ったお弁当等が作り出せるとよい。さらに、このような食材を扱える割烹等に提供が出来ればよい。潟で生産されるものは、地域色が出るため、地域の将来に向けて非常に重要。潟の食材を利用することによって、その生息環境を守る必要性、生物多様性の必要性が出て、ラムサール自治体認証にも繋がる。
- 潟の食材が新潟のブランディングに生かせれば、それらが生息できる環境をとは何か、それを維持していく取組になる。それを進めるのは行政だと思う。このような食材は、何に活用できるのか、どうしたらよりおいしくなるかを観光に活用し頑張っていただきたい。

【その他】のご意見

- 自然環境活用部会を中心に、他の生態系ネットワークと交流の場を設定できると良い。

第5回 自然環境活用部会 概要

- 越後平野の自然の価値や魅力を活かした地域の活性化、地域づくりに関するご意見や情報を有識者をはじめとする皆様から頂くために、推進協議会の下部組織として自然環境活用部会を設立（令和4年12月）
- 自然環境活用部会は、指標種をはじめ水辺に係る地域資源を活かした自然の価値や魅力といった地域振興・経済活性化を目指し、生態系ネットワークの重要性及び認知度を向上させるための普及啓発、広報、イベント、環境学習などの取組みを検討し、地域の賑わいづくりを推進することを目的とする。

【概要】

■開催日時

令和6年6月21日（金）10:00～12:00

■プログラム

1. 開会

2. 議事

- (1) 第4回自然環境活用部会の報告
- (2) 地域づくりや利活用に関する方策案
- (3) 福島潟エリアにおけるモデルプロジェクトについて
- (4) 自然環境活用部会全体に係る取組について
- (5) 行動計画(2030)策定に向けた検討
- (6) その他

3. 閉会



第5回自然環境活用部会の様子

【福島潟モデルプロジェクトについて】のご意見

- 取組の展開について、今まで個々でやっていたものが、部会の取組、あるいは全体的なブランドビジョンを示すことで徐々に連携をとりだし、点と点が面の観光資源として育ってきた印象。より広域の観光エリアとして認知されるように取り組みたい。
- 福島潟のインバウンド向け観光誘致の取組に対して、新潟観光コンベンション協会が実施主体の今年度・単年度業務で観光庁から大きな額の補助金の認可が下りた。福島潟食文化ということで、ここでしかない希少価値を提供していきたい。
- 福島潟はかなり動きだしているので、自然環境部会で洗い出したガン・ハクチョウに関連した重要な地域においても、引っ張つていってくれる方を部会のオブザーバーとして参加していただくなど、どんどん繋げていくのがいいのではないか。

【指標種、生息環境について】のご意見

- コウノトリは指標種には入っていないが、数年後には飛来してくると思われる。大型鳥類の生息環境について農地が非常に重要なので、JAとも連携拡大が必要。トキやガン・ハクチョウ、コウノトリも視野に入れた協議については、土地改良区や、地方自治体の農業政策部門の行政担当者に加わっていただき、専門的な意見交換をする必要があると思う。
- 中干の時期、秋耕の取組については指標種の生息環境に大きく影響を与えるので、対応を検討いただきたい。
- 有機栽培米は、科学的なデータに基づいて安心安全を保障し、説明していくことで理解が得られ、地域のブランディングになる。

【環境学習について】のご意見

- 関東エコネットでは、市内・県外の学校と連携してオンラインでの意見交換会をしているとのこと。まずは新潟で同様の授業を行っているような小中高と意見交換をし、刺激的なネットワークを創っていくのがいいと思う。核になる人を決めて動くと良い。

【えちごエコネットの取組について】のご意見

- 越後平野で『こういう資源がどれくらい存在しているのか？』といった評価もあってよいのではないか。潟料理に関する食材や、観光につながる資源が枯渇しないように、資源評価の視点も重要だと思う。治水事業が経済を動かすという発想で。
- 瓢湖はハクチョウの訴求が一番強くグッズ等もハクチョウがメインだが、ハクチョウ以外にも魅力的な鳥がいるということを四季を通して伝えられると良い。また、周りのエコネットの方々とともに、潟フェスのような場でPRできたら一番良いと思う。
- SNSについて、新潟県観光協会さんなどの分析ツールやノウハウもいただいて分析しながら、学生たちが発信できるようなプラットフォームを作っていただきたい。
- 新潟市がカバーできない、越後平野の情報をガイドブックという形で作成することで、広報や普及啓発に使えると思う。
- 各地の生態系ネットワーク形成の取組について交流を持つ場を、見学会や交流会という形で企画願いたい。

【その他】のご意見

- 来年度9～10月に応用生態工学会の全国大会を新潟で開催する可能性が高い。同大会の市民向け公開シンポジウムの題材を生態系ネットワークにし、当該事業が広く市民に理解されて拡大していくようなきっかけにできれば。